

親しまれた

有線放送に

さようなら



十二月三十一日

二十八年の幕を閉じる

永い間、皆さんとの情報伝達機関として親しまれてきた有線放送が、十二月末日で業務を終了することに伴って有線放送お別れ式が、十二月十九日に行われました。当日は、有線放送業務開始以来、業務に携わってきた方がたや、有線放送運営委員の皆さんをはじめ、議会議員、行政委員の方がた一五人が集まり、思い出多い有線放送になりを惜しみました。

有線放送電話施設は、昭和三十四年、新市町村建設計画の一環として企画され、同年十二月二十一日に着工、昭和三十五年三月に工事が完了し、四月十一日加入戸数一、一八〇戸で放送業務を開始しました。昭和四十五年には、自動切替が開通したことに伴い加入戸数が一、九七〇戸になり、情報伝達機関としての全盛期を迎え、数年前から少しずつ減りながらも、現在の加入戸数一、七八三戸とその役割を十分果たしてきました。特に、昭和四十六年災害時には、有

線放送の避難呼びかけにより人命を救う働きもしました。こうして皆さんとともに歩んできた有線も十二月三十一日町長の放送終了のあいさつをお送りし、二十八年間の幕を閉じます。

新年からは有線放送に変わり、防災行政無線を通じ、町からの行事等のお知らせをいたします。

有線放送でもお送りしましたが、お別れ式で有線放送の思い出文の発表がありましたので、皆さんにご紹介します。

有線放送の思い出

長塚 木内 こう

我が家に有線放送電話機が取り付けられてから早いもので二十八年という年月が過ぎました。私達の生活の中でどんなに役立つくれたことでしょうか。有線は相手の家まで行かなくとも、遠い近いにかかわらず町中に通じ、話ができただけで助かりました。当時私の家には電話と言う物がなかったもので、忙しい時等大変助かりました。あの時代の交



発表する木内さん

換手さんの呼出しがなつかしく思われます。加入当時は共同回線でしたので少し不便な時もあり、話を聞かれて困ったこともありました。反面、良い点もありました。自分でダイヤルを回す事もなく交換手さんの番号の呼出しでした。ダイヤルのまちがいのもなく通じました。当時は有線放送が流れると有線の近くにみんなが集まり聞いたものでした。放送の中で町の行事や、いろいろな出来事等が良くわかり、暮らしの中で一番身近なものでした。その後、直通ダイヤルになり放送時間以外ならい